海峡

関門医療センター

Speed
Standard&Safety
Smile

194号　発行所/下関市長府外浦町1番1号　国立病院機構 関門医療センター　発行責任者/病院長 林　弘人　印 刷/(株) アートネクスト

災害に備えて

私は救命救急センター病棟に勤務しています。また、DMAT（災害時派遣医療チーム）の一員としての役割も担っています。DMATの一員として取り組む機会が増えるたびに災害医療の重要性を痛感します。

昨年（平成30年）は大阪北部地震（2018年6月18日）、平成30年7月豪雨（西日本を中心とし台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨）、台風21号（2018年9月4日）、（北海道胆振東部地震）2018年9月6日）など、多くの自然災害が発生し、今もなお熊本県内では震度6弱の地震（2019年1月4日）が発生しています。7月豪雨災害では当センターのDMAT隊員も現地に派遣され、病院支援や避難所・救護所などの災害救護活動、被災地における支援活動、被災者の心のケアなどを行いました。

当センターは災害拠点病院の役割も担っており、いつ起きるかも分からない災害に備え、定期的に病院防災訓練を開催し、防災に対する知識技術の向上に努めています。2017年3月、厚生労働省により災害拠点病院の指定要件が一部改定され、災害拠点病院に事業継続計画（以下、BCP）の策定が義務化されました。当センターでも災害拠点病院としてBCPの整備と、それに基づく訓練の実施を行っております。

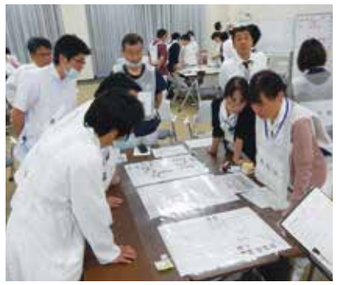
平成30年度3市（下関市、長門市、美祢市）合同防災図上訓練

～災害拠点病院としての取り組み～

平成30年12月には、大規模災害発生時に多数傷病者が救急搬送された場合を想定し、当センターが機能的に十分対応できるよう医師、看護師、コメディカル約50名が参加し、5グループに分かれて災害図上訓練（状況予測型机上訓練）を開催しました。病名や症状などを記載した模擬患者カードを使用して病院マップ上から各グループで災害時の行動を考えていきました。災害状況の変化とともに必要とされる役割を考え、積極的に意見交換をしながら状況判断を行い、どのような行動が必要になるのかを検討する中で最善の対策を確認しながら訓練を行うことが出来ました。訓練終了後の検証会では、各グループから災害発生時に必要な行動や業務内容、情報収集の方法や連絡方法についての発表を行い、参加した職員で情報共有することが出来ました。

災害医療は一人で行うことはできません。なによりチーム医療が重要となってきます。今回の防災訓練で学び得たことをPDCAサイクルを意識しながら振り返り、全職員・全部署で継続的に災害時受け入れの備えについて考えていきたいと思います。私も有事の際に活動できるように今の自分に何ができるのかを考えながら、今後も災害医療に携わり取り組んでいきたいと思います。

One for all　all for one
～一人はみんなのために　みんなは一人のために～



各職種で意見を出し合い訓練を実施

救命救急センター看護師
日本DMAT隊員
山口（やまぐち）　智弘（ともひろ）

日曜日の朝は「サンデー健康応援講座」（予定）

毎月第4日曜日10:00～11:00　関門医療センター3Fホール

3月24日（日）「知っておきたい薬の話」

副薬剤部長　濱岡　照隆

どなたでもご自由に参加できます

サンデー健康応援講座

「脳卒中の危険信号とその予防」

脳卒中を発症した患者さんが救急救命センターに搬送されてきます。

話を聞いてみると「布団から起きてこなかったから休ませていた」「手がしびれたけど様子を見ていた」と答える患者さんや御家族が多いことに気付きます。

実は、脳梗塞では発症から4.5時間以内なら詰まった血栓を溶かす注射や8時間以内ならカテーテルで血栓を回収する治療を受けられる可能性があります。脳出血でも速やかに血圧を下げることで再出血を減らし障害を軽減することができます。

では、どうやって脳卒中の症状に気付けばよいのでしょう？

脳卒中に気付く方法として『FAST』という検査があります。定型文にしているので、おやっと思ったらご家族にそのまま使ってみてください。

①「イーと言って口角を上げてみてください」（片方の口角が上がらない、しわが出ないと異常です）

②「両手を前に伸ばして、手の平を上にして、目をつぶってください」（10秒のうちに手のひらが内側になったり、片腕が下がってきたら異常です）

③「瑠璃（るり）も玻璃（はり）も照らせば光ると言ってみてください」（言葉が出なかったり、理解できなかったり、呂律が回らないときは異常です）

症状が一つでもあれば、すぐに救急車を呼んでください。

もちろん日ごろから生活習慣を改善し、予防に努めることが大切ですが、おやっと思った時の対応もすごく大切です。

是非、あなた自身のため、ご家族ご友人のためにもこの『FAST』を覚えておいてください。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
原田（はらだ）　高志（たかし）

ボランティアイベント

【みんなで歌おう】

平成31年1月23日（水）ボランティアの方主催よる合唱会が行われました。【みんなで歌おう百万本のバラを】という題で開催され、3曲（四季の歌・瀬戸の花嫁・百万本のバラ）を合唱しました。ボランティアの方のみが合唱するのではなく、会場の皆様全員で一緒に合唱することが今回のイベントでしたが、ボランティアの方の指示のもと気を付けるところを何度も繰り返し練習しました。最後には気持ちのこもった綺麗な歌声がそろい、盛大な拍手で締めくくることができました。大勢で合唱すること、意識しながら繰り返し練習することは学生時代以来、久々にされた方も多かったのではないでしょうか。

部署紹介　～手術室～

手術室は全6室で、主に8診療科の手術を行っています。平成30年度12月末までの手術件数は約2200件と年々増加傾向にあり、眼科、整形外科、外科の3科で約80％の手術件数を占めています。さらに、中央材料室では手術や処置で使用する医療材料及び滅菌機器、機材を多数管理しています。

スタッフ一人ひとりが患者さんに安全・安心な手術を提供できるよう、カンファレンスを実施し、情報共有に努め、患者さんの個別性に合わせた手術介助を看護師2名で責任を持って実施させていただいています。また、手術室で起こり得る症例別の急変時対応や医療機器の勉強会を毎月実施し、手術室看護師としてのスキルアップに努めています。多部門・多職種、病棟と連携を強化し、手術という人生で大きなイベントに臨む患者さんに寄り添い、24時間体制で安全・安心・安楽な医療、看護を提供しています。

〒752-8510　下関市長府外浦町1番1号
国立病院機構 関門医療センター
診療受付時間：午前8:30～11:30
午後（各診療科外来にお問い合わせください）
※土曜日・日曜日・祝祭日は休診 ※臨時休診は各外来窓口に表示

★代表　TEL(083)241-1199
FAX(083)241-1301
★地域医療連携室　TEL(083)241-1191(2561)
FAX(083)241-1302
（★透析センター FAX(083)241-1308）
http://www.hosp.go.jp/~kanmon/

特集 災害に備えて

下関市の災害医療体制について

下関市保健部保健医療政策課主任の長岡敏信さんに伺いました

下関市保健部保健医療政策課
主任
長岡（ながおか）　敏信（としのぶ）

【プロフィール】
平成 6年4月　下関地区広域行政事務組合消防本部（現下関市消防局）消防士拝命
平成14年5月　救急救命士資格取得
平成28年4月　下関市保健部に出向

平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震等の地震災害や、平成27年9月関東・東北豪雨、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨等、近年、全国各地で多くの自然災害が発生しております。

下関市においても、そのような災害がいつ起きても不思議ではないことから、本市の災害医療体制についてお話いたします。

本市では、豪雨、洪水、土石流等の異常な自然現象や震度5弱以上の地震により、市内で大規模な災害が発生又は予想されるときに、市長を本部長とする下関市災害対策本部が設置されます。

平成30年度3市（下関市、長門市、美祢市）合同防災図上訓練
市災害対策本部員や防災関係機関が一堂に会し、防災図上訓練を実施

災害時には、災害応急対策を迅速かつ効果的に実施するため、災害対策本部体制により、消防局を含めた市の各部局が連携して下関市地域防災計画に定めた様々な活動を実施することとしております。

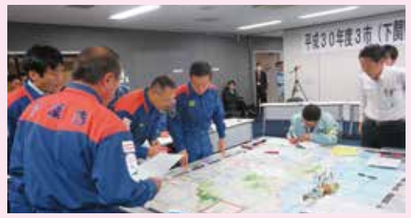
災害時の保健医療活動は、下関市地域防災計画に基づき、保健部長が統括する保健対策部を中心に行われます。

保健対策部では、市内外から参集するDMAT（災害時派遣医療チーム）等、様々な保健医療活動チームの指揮及び連絡調整をはじめ、下関市医師会等医療関係機関・団体等と連携し、医療救護班の編成や医療救護所の設置を行い、市民が医療の途を失った場合に、応急的に医療活動を実施します。

災害時の医療においては、医療機関との連携が重要であり、特に災害拠点病院との緊密な連携が求められます。

市内では、関門医療センター、済生会下関総合病院、下関市立市民病院の3か所が災害拠点病院として指定されており、災害時には、これらの病院を中心に重傷者の受入を行いますが、市内で対応が困難な場合は、市外又は県外の医療機関に広域搬送することにより、一人でも多くの負傷者を救護できる体制を整備しています。

市保健部では、医療施設の被災状況や診療状況等の情報を収集し、「EMIS（広域災害・救急医療情報システム）」に情報を入力することで、全国の災害拠点病院やDAMT等が迅速に情報を把握することができるよう、平時から体制を整えております。



災害現場を地図で確認し対応策を協議

EMISとは、災害時に被災した都道府県を越えて医療機関の稼働状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としたシステムです。

本市では、平成30年4月の機構改革により保健部保健医療政策課内に健康危機管理室を設置しました。現在、災害時の健康危機管理に係る計画を策定中であり、市民の生命と健康を維持するための保健医療体制の整備及び強化を進めているところです。

災害時には情報の共有と多職種連携が最も重要となります。今後も引き続き、医療機関の皆様と連携して災害時に迅速に保健医療活動を実施できるよう体制整備に努めてまいりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

災害に備えるための設備

庶務係長
小林（こばやし）　史明（ふみあき）

今回は、災害に備えた関門医療センターの設備を紹介させていただきます。

まず、非常用自家発電設備（写真①）です。災害時に大規模停電により電力会社からの電力供給がストップした場合、非常用自家発電に切り替わります。この非常用自家発電設備は重油を燃料とし、タンクの容量は41,950ℓで、当センターの医療機器や必要最低限の電力の使用で4日間、診療機能を維持できる見込みとなっております。

写真① 非常用自家発電設備

写真①-2

続いては、免震設備です。関門医療センターの地下には、建物と地面の間に分厚いゴム（写真②）の免震装置が133本設置されています。この装置のおかげで、地震が発生した際に地震の揺れを免震装置が吸収し、直接建物に揺れを伝わりにくくします。震度7の大地震の揺れにも対応できるものとなっており大きな揺れに対して効果を発揮します。平成28年4月に発生した熊本地震の際は、下関市内も大きな揺れが観測されましたが、幸いにも建物内は大きな揺れを感じることなく、特に大きな被害もありませんでした。

写真② 免震設備

また、昨年の9月には当センター海側に、防潮堤（写真③）が完成しました。この防潮堤により、台風襲来時に伴う高潮・高波や地震による津波等の浸水災害から、病院建物や駐車場を利用する方々の安全がより強化されました。

このような設備以外にも当センターでは、現在、BCP（事業継続計画）の策定を進めており、今後も災害拠点病院として、患者さん・地域の皆さまの命を守るために災害時の対応の検討や、災害訓練の実施など、最大限、努力してまいります。

※BCP（事業継続計画）…災害などの緊急事態が発生したときに、企業が損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画。

写真③ 防潮堤

災害用医薬品備蓄について

薬剤部長
樫野（かしの）　勝幸（かつゆき）

当センターは災害医療拠点病院であることは皆さんご存知でしょうか？東日本大震災発生時は災害派遣医療チーム（DMAT）及び医療班として、また熊本地震でも災害派遣医療チームDMAT及び医療班を派遣いたしました。

派遣時に医薬品は欠かせません。しかしどのような医薬品が必要でどれくらい持参するかは決まった数量はありません。そこで当センターでは「発生から5日目までに必要な医薬品リスト」を作成し常に在庫管理しています。

内容は安定剤、睡眠薬、高血圧、風邪薬、鎮痛解熱剤、抗生物質、喘息治療剤、胃薬、整腸剤など急性疾患から慢性疾患まで様々です。

持参する災害用医薬品備蓄は多すぎても少なすぎてもいけないので難しいところもあります。

実際に被災地に派遣された場合、次の派遣チームと交代する時は、持参した災害用医薬品備蓄が余った場合には現地に置いて帰ることとなっている事はご存知ですか？次の派遣チームで使う可能性があるためです。

他施設は常に在庫を減らすようにしていますが、当センターは近隣で災害が発生した場合には受け入れ病院となるため、常に在庫を多く持って災害に備えています。

災害時に備えて必要な医薬品をリスト化し、在庫管理